

仙台城 now ! vol.5

発行
仙台市教育委員会文化財課
令和5年6月30日

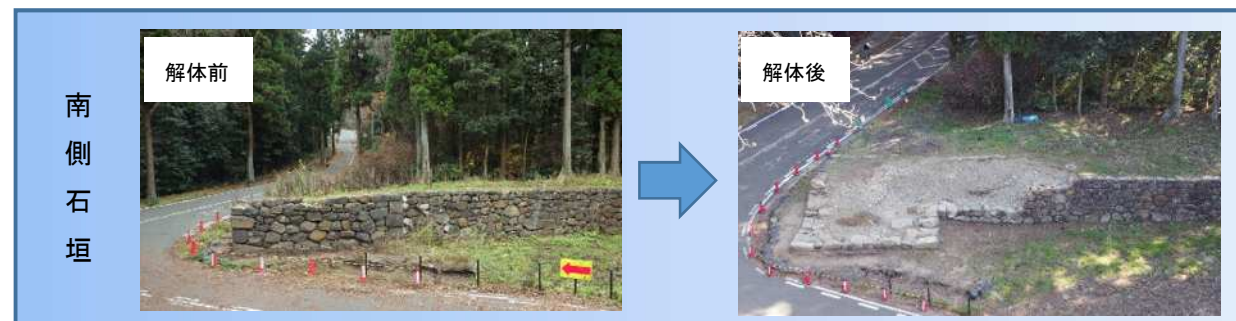
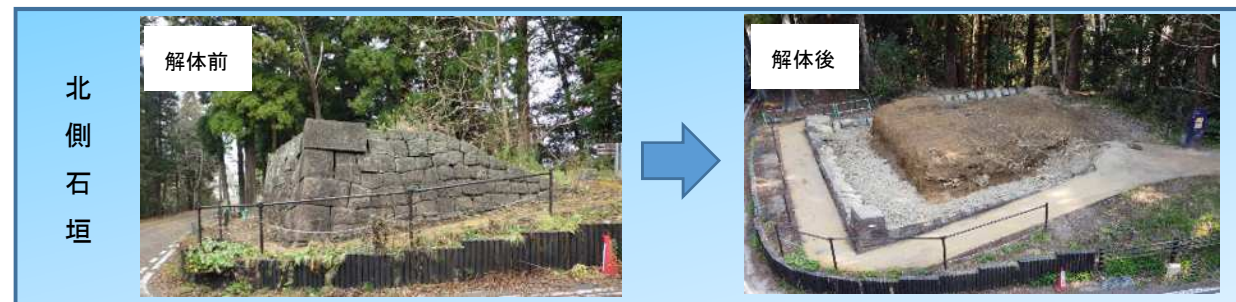
仙台城跡の災害復旧 中門石垣の解体



今回の「仙台城 now !」では、仙台城跡^{なかのもん}中門石垣の解体時の様子についてご紹介します。

中門石垣は令和3年・4年の地震によって、石材のズレや石垣面の変形などが確認されたため、解体・積み直しを行うこととなりました。解体は令和5年3月～4月にかけて実施し、今後は積み直しに向けて周辺の調査や、工法の検討を進めていきます。

令和5年4月より、大手門～本丸間の歩行者の通行が再開しています。中門石垣の石材が外された様子もご覧になれるので、ぜひ仙台城にお越しください。

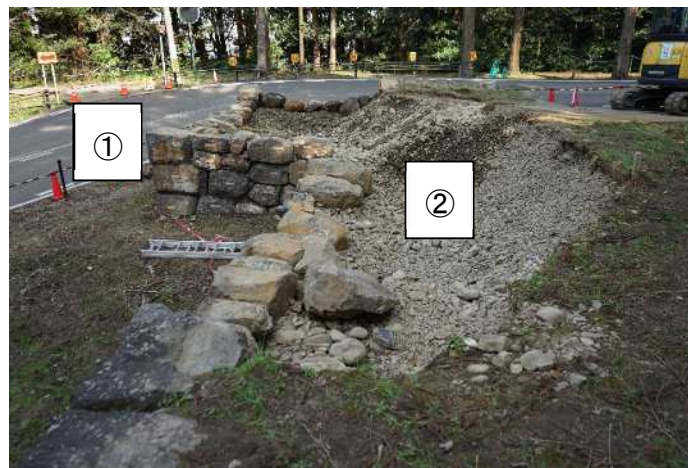


中門石垣背面の様子

北側石垣の背面



南側石垣の背面



① 築石

石垣の面を構築する石材

② 裏込め(栗石)

築石の背面に詰められた石。石垣を背後から支え、雨水などを石垣の外へと排出する役割があります。

③ 背面盛土

裏込めの背後にある基盤の土層。中門北側石垣では薄い層が重複した版築状の盛土が確認されています。

④ 押石

築石のはらみ出しやすり落ち防止のため、築石の後ろ側に配置する石材。

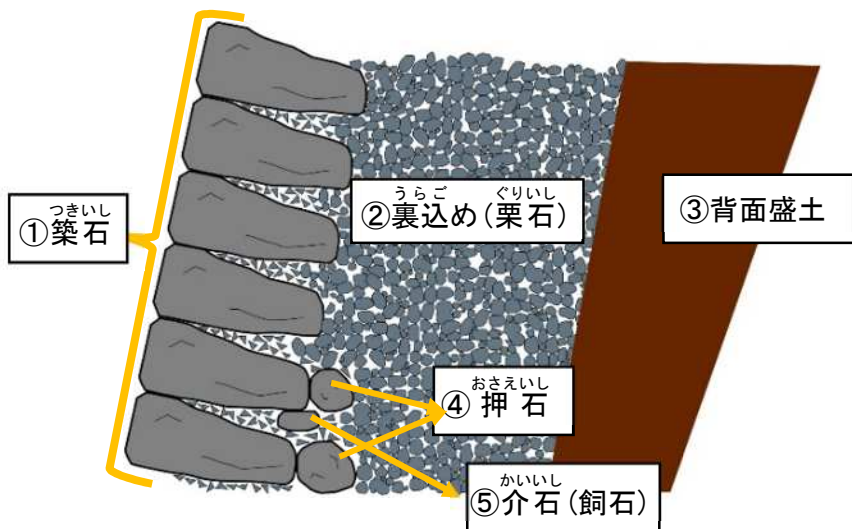
(写真：南側石垣)

⑤ 介石(飼石)

築石と築石の間に位置調整や固定のために挿入する石材。

(写真：北側石垣)

石垣背面の模式図



石垣の内部は大きく築石、栗石、背面盛土で構成されています。



中門石垣 解体の工程

準備

①被災状況の記録



解体に着手する前に、被災状況を記録する測量を行いました。
地震による変形状況をもとに、解体する範囲を検討します。

解体

②石垣背面の裏込めの掘削



石材を解体するために1段分の裏込めを掘削します。

③解体前の番号付け作業



中門
北側
石垣
A面 21番

裏込め掘削後に、1石ずつ墨で番号を付してから解体します。

④築石解体作業



石材の状況の記録後に、ワイヤーを掛けて吊り上げ、ダンプに積み込みます。この時にそれぞれの石材に大きな破損がないか等、記録を行います。

保管

⑤石材置き場での保管



解体した石材を、保管場所に並べて保管し、積み直しに備えます。

今後は地盤調査等を行いながら、石垣の積み直しの設計を進めていきます。